

広報 たなべ

ともに歩こう。次の1000年へ。

9

2025

No.244

特集 みんなで少しずつ ー自分たちらしい地域をー かたち



暮らしの中での困りごとに、地域みんなで取り組むことで解決できることがあります。
まずは気のあう友達や同じ悩みを持つ者同士で、地域のことについて話してみませんか。

INDEX

令和8年度田辺市立幼稚園新入園児を募集します / 第37回弁慶まつりを開催します /
たなべ住人十彩「人生しっかり楽しみます」藤井 容子さん（田辺市新屋敷町） /
アオハル高校生レポーター「人を育てるということ」南部高等学校 嶋本 崇良

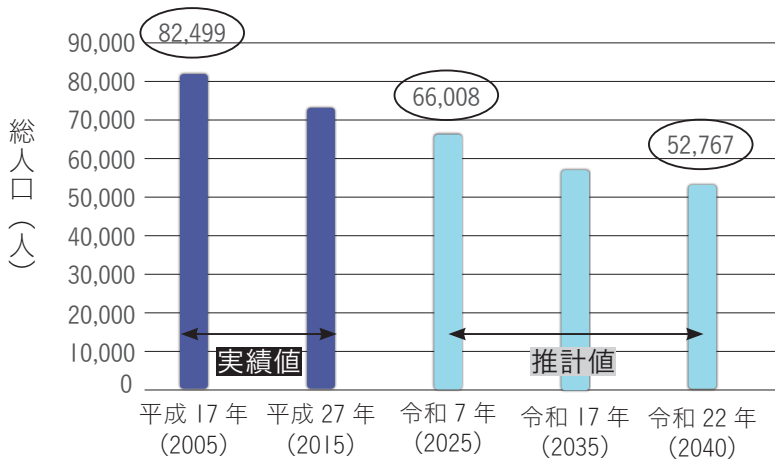
安心して住み続けるための

地域の支え

市町村合併から20年。人口は平成17年の8万2千人から6万6千人まで減少しているなど、人口減少問題が浮き彫りになっています。人口減少が起因となり、労働力不足や社会保障制度の負担の増加、地方の過疎化など多くの問題を引き起こしています。

■田辺市の人口予測

平成17年～平成27年：国勢調査実績値
令和7年～令和22年：コーホート変化率法を用いた推計値



人口減少と地域コミュニティ

人口減少による課題の一つに「地域コミュニティの衰退」があります。人口が減少しても、安心して住み続けられる地域を維持していくために、地域の課題や悩みごとに対して、行政だけでなく、地域の皆さんとともにどのように取り組んでいくかを考え、実行していく必要があります。

地域コミュニティが衰退すると：

- ・伝統的な祭りなど文化・芸能が継承されない
- ・災害時に公的救助がくるまでに互いに助けあう「共助」が成り立たなくなる
- ・子どもの数が減って、サークル活動がなくなり、子どもたちの居場所がなくなる



「田辺らしい自治のしくみ」をめざして

地域コミュニティは、自治会などの地縁に基づいた団体に加え、個人で地域活動をされている方や、特定の目的のために作られた団体など、様々な形態があり、多様化が進んでいます。

そうした個人や団体が、地域共同体としてともに地域の実情や課題を共有し、解決していく「田辺らしい自治のしくみ」づくりが始まっています。モデル事業として、令和5年度からは新庄地域で、令和6年度からは上芳養地域で、それぞれの地域に合った自治のしくみを模索しています。



人のつながりを生かし、

地域の課題を解決する新たなステップ

橋谷獅子舞保存会長として地域を盛り上げられていたことをきっかけに橋谷町内会長となり、今では新庄町まちづくり協議会の会長も務めている佃さんに、今後の新庄町全体の活動について伺いました。

背景と現状

私が子どもの頃は、町内全体で運動会に参加し、地区対抗競技で盛り上がった。町内の美化活動に積極的に参加したりするなど、町内会の活動は非常に活気にあふれていました。

しかし、現在では個人の価値観の尊重や生活スタイルの変化により、町内会への加入者が減少しています。会員が減っても役員の活動内容は変わらないため、負担が大きくなり、脱会する人も増えているのが現状です。

守るべき伝統

また、今まで伝統的な獅子舞の活動を通じて地域の結束を強めてきましたが、地域活動への思いが異なることから祭りに参加する若者も減少してきました。

そのため、橋谷町内会と一体となって祭りを維持するための努力が続いています。数年前に、小学生以上で上富田町など他の地域からでも参加できるようにした「子

ども獅子舞」を始めました。おかげで今では大変なにぎわいを見せています。

地域活動の統合

令和5年には、市からの提案をきっかけに、新庄がモデル地区となり、町内会だけでなく学校や獅子舞保存会など各組織が一体となる地域活動を始めました。

この7月に「新庄町まちづくり協議会」（協議会）を結成し、この統合によって、役員の意見交換が活発になり、地域全体のつながりが強化されたと感じています。

他自治体の視察と学び

今後の活動のため、他自治体の取り組みを視察しました。LINEを利用した電子回覧板導入と高齢者講習会の実施、ドローン体験を通じた地域交流、また災害時等に自分たちで道路修繕をできるように小型車両系建設機械の免許取得を企業と共同開催するなど、町内会活動の先入観を超えたアイデアを学びました。

防災の取り組み

協議会の最初の取組として、まずは中学生以上の町民全員にアンケートを取りました。一番意見が多かったのは南海トラフによる災害への備えや避難に関することでした。また費用負担をすることで困りごとの解決を望む人や、条件が合えば困りごと解決のお手伝いが可能な人がいるなど、思った以上の意見を聞くことができました。

来年2月に、市の防災訓練に学校行事を組み合わせることで、より大規模で多くの参加者を見込んだ避難訓練を予定しています。最近では、津波警報発令時に協議会のメンバーが自発的に避難所を点検し、情報共有の方法に改善点を見つけました。

人口減少は止められんけど、悪あがきをしたい

人のつながりは地域の財産であり、重要な武器だと考えています。今後、協議会の結成により、地域のつながりがよりいっそう強化されることが期待できます。この多くのつながりを活用し、地域課題の解決に向けて確実に取り組んでいきたいです。



新庄町まちづくり協議会
つくだのぼる 佃 昇 会長



”そのまま”を表現できる場所へ

三栖地域では、住民自らが地域の居場所づくりに取り組んでいます。子ども食堂「くるむ食堂」を運営する花村さんは、「子どもだけでなく、地域の方にもぜひ参加してほしい」と言います。希薄化しつつある地域コミュニティにどのように関わっていくのか、花村さんに伺いました。

地域に根差した活動を

私が幼い頃は近所付き合いをするのが当たり前でしたが、現代は近所付き合いも希薄になり、近所のおじいちゃん、おばあちゃんに育てられた私からすると、寂しい気持ちがありました。そのような中、一昨年に障害のある方を支援する事務所を夫が立ち上げ、そこで、子ども担当の相談員として働くようになったことを機に、子ども食堂「くるむ食堂」を始めました。

当初は事務所や事務所近くのお寺を拠点にしましたが、昨年9月に「くるむ食堂を地域に根差し広めていきたい」と三栖町内会の女性会の会長に相談し、現在は三栖公民館で定期的を開催しています。

無理なく、のびのびと

くるむ食堂のスタッフはボランティアなので、自由で無理のない範囲で参加していただいており、女性会の方にもお手伝いいただくなど、地域の方が支え合って運営しています。

また参加される子どもたちには、「これはしてはいけない」というルールはあまり設けずに運営して



子ども食堂「くるむ食堂」
はなむら 花村 あゆみさん

いるので、伸び伸びと遊んでくれます。時には、物を壊してしまうなどの失敗もありますが、その失敗も子どもたちの成長にとって必要なこと。温かく見守る場所であり続けたいです。

参加された子どもたちや保護者の方に毎回ノートにコメントを書いてもらっていて、今でも見返すと感激して、思わず泣いてしまいます。字がまだ書けない子どもたちが一生懸命に気持ちを伝えようとしている、その



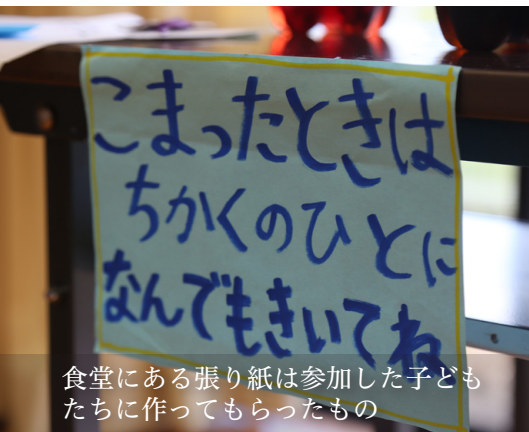
花村さんやスタッフの方への感謝の気持ちがたくさん

姿が本当に愛おしいですね。

形・方法にこだわらない

今はくるむ食堂という形で地域に関わらせていただいています。あくまでこれは方法の一つ。形にこだわらず、地域の人を受け入れる居場所を築いていくことが必要だと思っています。現在、これとは別に女性会と地域をつなぐための取組として、女性会主催で音楽に合わせて身体を動かす親子リトミックを開催しています。くるむ食堂と併せて、地域と子育て世代の方とのつながりが広がっていると感じています。

私としては、この地域を「やりたいことができる」地域にしたいと思っています。紙芝居の読み聞かせができる人、料理が好きな人……。プロのようにうまくなくて



食堂にある張り紙は参加した子どもたちに作ってもらったもの



もいいので、地域の大人が子どもたちの成長に関わってもらえる、そして地域の居場所を作ることができる仕組みを作っていきたいです。

地域の居場所として

この活動が続ける中で、少しずつ色んなところから関わりが始まり、また、参加された方の成功体験を周りの方に伝えていただくことで、次に参加しようとする方の後押しになり、周りが自然と巻き込まれていく……。その点と点がつながる過程が地域づくりの醍醐味と感じています。そしてそれが地域で支え合う力となり、「最大の防災」にもつながると確信しています。そんな地域の人にとっての居場所づくりをこれから進めていきたいです。



インタビュー

親も子どもも助かる場所



ぬまい
沼井さんご家族

去年の冬に、学校だよりも子ども食堂が載っていたことから、「近場にあるし、一回行ってみよう」という感じで行きましたが、今では開催される日にはほとんど行くようにしています。

ここは同じくらいの歳の子とも遊べる環境です。子どもたちも、にぎやかな場所が好きなので、遊び場が少ない中でも助かる存在です。また夏は熱中症が心配ですが、子どもが天候を気にせず遊びに行けるし、こういう場所ありがたいなと思います。

他のお母さんと気軽に話ができる雰囲気、知り合いにも参加を勧めています。この活動がこれからも続いてほしいです。



地域が一致団結して、 かみはやキャラバン



▲Instagramはこちら

梅と地域の未来を守る

上芳養地域で栽培が盛んな「梅」を、地域が一致団結してPRするイベント「かみはやキャラバン」。そのきっかけを作った上芳養小学校の新谷憲史校長と、活動に携わっている山森志穂さんにお話を伺いました。

■かみはやキャラバンが始まった経緯を教えてください。

新谷校長 以前から修学旅行で梅を配るという行事はあったのですが、配る場所が閑散としていて、子どもたちは配るのに少し苦労していました。もっと子どもたちに「自分が作った梅が人の手に渡る喜び」を経験させてあげたいと思いました。その経験により、梅に夢を感じ、地域の将来につながっていくと考えたのです。そこで、事業者の方や学社融合推進協議会に相談させていただいたのが始まりです。

■活動の原動力は何ですか。

新谷校長 上芳養が、この先も梅とともに生きていく地域であることを、子どもたちに



上芳養小学校
新谷 憲史校長

ポジティブに感じてもらいたい、それが地域全体の願いであり、原動力だと思います。

山森さん 上芳養の将来の推計人口を聞いて、はっとしました。娘が大きくなって、地元で梅に携わる姿を想像すると、今から行動を起こさなければ！と感じました。

■成功の秘訣は何ですか。

山森さん 上芳養の方はとても優しく、地域が一丸となっ

「かみはやキャラバン」とは……

上芳養小学校の修学旅行で自分たちで作った梅を配るという伝統行事を、地域や公民館、事業者なども巻き込んで、地域を挙げて梅をPRするイベントとしたものが「かみはやキャラバン」です。小学生は、自分たちで作った梅干しを配り、中学生は梅シロップ作りなど「梅を体験」できる催しを開催します。大人は、マルシェなどで梅をPRします。





自治振興課
いわさき
岩崎主査

自分たちの地域に
合った活動を

私たちは、市民の方が主体となった地域づくり活動のサポートをしています。

それぞれの地域には、地域に合ったコミュニティの形があります。市民の方が、自分たちのまちの現状や、めざすべき地域像について真剣に考え、自らの手で地域を作り上げていくことが大切です。

市民の方一人ひとりも仕事や生活の状況などによって、地域活動に参加できる範囲は異なります。一番大切なことは、自分たちが住むまちに興味を持ち、知ろうとすることです。まずは地域を「知る」という一歩を踏み出していたきたいです。

今後、地域コミュニティが持続的に発展していくためには、市民の皆さんが無理なく地域活動に参加できる仕組みを模索していかなければなりません。私たちも、全力でサポートしていきたいと思います。

自治振興課市民活動係

☎ 0739 (26) 9911



①梅干し配布前の小学生は少し緊張気味。②笑顔あふれるお客様との会話。③④マルシェでは生産者の思いのこもった梅製品などが並ぶ。⑤梅シロップ作りは大人気。⑥⑦梅 BAR では梅を生かした多彩な飲み物を味わうことができる。



山森 志穂さん

山森さん そうですね。今年

■地域の絆が強いんですね。

子どもたちのために行動を起こす力があります。マルシェへの出品に協力的なのもその愛情ですね。また、知らない人に声を掛けることは大人でも勇気がいることなので、お客様の目を見て渡す練習をしました。その結果、子どもたちが勇気を出して行動でき、成功につながったと思います。

新谷校長 地域の方々はもちろん、様々な方に支えてもらいながら継続していきたいです。そのために、「かみはやキャラバンサポーターズ」を絶賛募集中です！

■かみはやキャラバンの未来は。

新谷校長 子どもたちだけでなく参加された農家の方も、普段梅製品を購入する人の顔を見ないので、それを皆で共有できたことはいい経験ですね。

は、6年生の保護者の皆様や、地域の方にもたくさんお手伝いしていただきました。その中には、リピーターの方もいらっやあって、本当に有難いです。

—キャラバン参加者の声—

地域活性化の大きな柱になると感じた！

子どもたちが大人になるまで続けられたら、きっと何かかわるはず！

すごく達成感があった！

みんなで協力する力がついた！